

ネタの宝庫

阿部紀次

2011-18年、吉岐での仕事の中で、和牛の衛生(毎日の診療)に関する事はもちろんですが、他に、まあ自分らしさが出てたなあと思うものを並べてみます、、、

- ・ヘラ型 離乳鼻環の導入(輸入・普及)(これは、今や日本中に広まっています)
- ・捻転去勢の導入(普及)
- ・プラスチック製パレットと、軽トラックを利用した子牛の開腹手術台の考案
- ・宮崎大学などでの講師(蹄管理など外科関連講義実習)
- ・吉岐の和牛における趾皮膚炎の発生状況発表(地区学会)
- ・削蹄師会吉岐支部の設立
- ・コロサク吉岐バージョン作製
- ・九州デザイナー学院学生との農業体験事業
- ・酪農学園大学外科学実習講師(年12回)
- ・現代農業執筆(20記事)
- ・ムカデ油研究会設立(生産)(笑)
- ・横石知二氏講習会実施
- ・護蹄研究会副会長
- ・国際蹄病学会(ミュンヘン)参加

など、です。

まあこう見ますと色んな事やれました～

THMS時代に培ったハードワークから、日常診療を差し引いたときに産まれる時間とパワーで出来たのだと思います。しかしながら、それでもなお余ったパワーは、美味しい魚とお酒に回る事になり、結果、腹は出るし内臓脂肪は分厚くなるので、100kgに迫っており、ツナギは3Lがキツくなる有様でした。が、この時“その病氣”の自覚症状は全くありませんでした。

大恩師の田口清先生が病に倒れられたのが2016年、酪農学園大学で外科実習の手伝いをする事にして、2018年2月受けた健康診断で、糖尿病の指標であるHbA1cが10.2%と出ました(正常値5.5)。「あなた失明しますよ」と告知され、インスリン注射を打ちながら、「食べたら靴を履け」の格言をそのままに、毎食後石田港周辺を歩きました(妻も付き合ってくれました)。そのかいあって、4月には20kg減量出来、身体も動いても汗をかかなくなったし、HbA1cは7程度まで下がりました。もう一息です。2018年4月からは別居し、私は大学近くのアパートでの自己管理生活となりました。酪農大学ではハイエースに学生を乗せて往診に行きます。3日に1日程度当番もあって、仕方なさもあり、都合良くもありでした(自分のペースで食事運動も出来たから)。糖尿病専門病院には毎月通うのですが、主治医との相性が悪かったので、「治るものなら是非治したい」と、モチベーションは上がりました。7月には6%となり、その後勝手にインスリン注射を止めて検査だけ3ヶ月間受けました。結果、数値は更に下がったので、10月からは通院せず、年一回の人間ドックで様子を見ていますが大丈夫です。アルコールは、ビールと大好きな日本酒を絶ち、焼酎・ウイスキーを好きになりました。ツナミはサラダ。「草を食いながら蒸留酒を呑んでれば大丈夫」なのです。年をとってから痩せると何だか心配されるのですが、まあまあ今は動いています。肩も肘も手首も膝も酪農大時代に治りました。酪農大学は命の恩人です～!

最後に、今回も少しだけ牛の話をしてします。

ブクブクに太った牛を目にすることがあります。コイツラも運動すればチョットは変わるだろうにと思います。「ウチはパドックに出してるから・・・」とおっしゃる方もおられるが、パドックでも、放牧地でも牛はそんなに活発に歩いてはいません。実験的に、共進会用のラウンダーで毎日1時間歩かせたら違おうだろうと考えて、内科の先生に言ったら、「面白いですね」とは言ってくれました。でもまずは“付け遅れ”をプログラム授精やETで無くしないとですが。

いずれにしても、酪農・農業はネタノ宝庫でございます。現役だからこそ色々気付ける・・・だから毎日を大事にしていきたいと思うのです。



和牛のDD:
条件さえそろえば和牛でも起こる(しかし拡大・拡散しない)。何故だ?